

第6次高浜市総合計画 基本計画【後期】〔素案〕に対する意見及び回答

パブリックコメント実施状況

- (1) 意見の提出期間 平成 29 年 11 月 7 日 (火) ～平成 29 年 11 月 21 日 (火)
- (2) 意見件数 82 件 (人数 10 名〔内訳：意見提出箱 5 名、直接 1 名、郵送 0 名、ファクス 1 名、Eメール 3 名〕)
- (3) 意見対応 ①修正します (原案に対する意見に基づいて、原案を修正したもの) : 1 件
 ②原案どおりとします (原案に対する意見を検討したが、原案どおりとしたもの) : 31 件
 ③意見として承ります (原案の内容以外の意見を承ったもの) : 50 件

番号	意見の対象箇所	意見	回答	対応
1	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画がスタートして、中期を終えようとしているが、この7年間で世の中はどのように変わってきているか。国はアベノミクス効果を強調しているが、この三河地区では7年前と比べても大きな変化は見えない。こうした中で、向こう4年間の市政をどう動かして基本計画(後期)を仕上げていくか！ 幸いにして、我が街の人口は徐々に増加している点に注目したい！また、小さな街だから、市民の総意を集めれば大きなうねりが生まれる可能性を秘めていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は、これまでの前期・中期7年間の現状・課題等を踏まえ、今後4年間に取り組むべき事柄をまとめた計画として作成してきました。 ご意見のとおり高浜市は未だ人口が増加している元気なまちです。今後も、小さなまちであるメリットを活かしたまちづくりを行っていきたいと考えております。 	③意見として承ります
2	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画【後期】の各指標を達成するための具体的な施策とその具体計画(日程)を入れ込んでいただきたい(別冊の工程表で可)。 各目標項目に対する責任担当部署、達成時期等を明示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画に掲げる目標達成に向けての具体的な施策(取組み)、実施日程、責任担当部署、達成時期等については、目標達成に向けての具体的な行動計画として毎年度策定する「アクションプラン」の中でお示し、公表してまいります。 	③意見として承ります

3	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 「まち協」の地域計画を現状を踏まえて、白紙から再構築した方が良いと思う。「まち協」は、地域を動かす拠点にすべきと思う。役員と名前が付く人数が多すぎる。給料を出しても良いから、常務役員（1～2人）を置いてPDCAを回す体制にした方がベターと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校区単位のまちづくり目標や活動方針、取組内容等を定めた地域計画については、地域の状況や社会情勢の変化等を鑑み、小学校区の総意で5年ごとに見直しを行っています。「まち協」は各小学校区におけるまちづくりの主体として、いまや地域になくてはならない存在となっています。まち協の運営については、地域ごとの特色も考慮し、主体性を大事にしながら、住民自治組織として自立できるよう支援を行っています。 	③意見として承ります
4	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は、前期・中期の施策との関連や、結果説明が必要だと思う。基本目標や目標、取組課題が唐突、かつ、断片的で、後期計画という集大成であろう計画において、適切性が理解できない。選択理由、削除理由につき、明確な説明が必要かと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は、有識者で構成する総合計画審議会において、ご意見にあります前期・中期の施策との関連や、結果説明をしてきており、その資料や審議結果については、市公式ホームページにて公表しております。説明会や広報たかはまで細かく説明できると良いのですが、説明資料が多量となることから市公式ホームページでの公表となっておりますことをご理解いただければと思います。 	③意見として承ります
5	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、中期計画の取組みにつき下記テーマを削除されました。 I-(1)「市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います」 これは、「中期」に達成と判断され削除されたのでしょうか？これが不十分のため「住民投 	<ul style="list-style-type: none"> 中期の「こんなことに取り組みます！」で掲げた「市民と行政がお互いにコミュニケーションをとり、市政運営やまちづくりに関する情報発信・情報交換を活発に行います」を、後期では「市民と行政がお互いの考えを理解できるよう、積極的な情報発信を行うとともに、対話の場をつくります」に変更し、市民と行政が対話 	②原案どおりとします

		<p>票」まで発展した最大の問題かと？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成容易なテーマを選択し取組み課題とされるのは、不適切な選択と思います。 ・テーマ選定に当たり、掲載テーマ以外にどのようなテーマが候補として上げられ、採用・不採用理由があれば理解しやすい。 	<p>を重ね、これまで以上に双方向にコミュニケーションをとりながらまちづくりを行っていくという姿勢を表しております。なお、変更に至った経緯等の説明についても総合計画審議会にて説明をしており、その資料については、市公式ホームページでご覧いただくことができます。</p>	
6	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な展望に基づき、後期取組みテーマを選定すべきかと・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期基本計画については、今後4年間の計画であります。第7次以降を見据えた長期的な展望も視野に入れながら取組みを検討しました。 	③意見として承ります
7	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメント受付期間が条例下限の2週間となっており、あまりにも短すぎる。 ・近隣他市（刈谷・安城・碧南・知立）は、パブリックコメント受付期間を、どのような議案であっても原則1ヶ月として運用している。 <p>「総合計画はみんなで高浜市を作っていくための設計図」であり「長期的な展望に立ち、総合的計画的に街づくりを行う指針となるもの」とし、「(2)多くの市民を交えながら計画を推進」と掲げていながら、十分な説明ができておらず、しかも意見受付期間が短すぎる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画に関連する資料は、施策課題カルテや前期分の総合計画との整合性、総合計画策定過程での議論等に限らず、都市計画マスタープランのほか、公共施設総合管理計画などとの整合性からも考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見を踏まえ、意見募集の期間については、今後検討していきます。 	③意見として承ります

		<ul style="list-style-type: none"> 上記資料を十分に思料した上で意見を出すためには、少なくとも1ヶ月以上の受付期間を定めるべきであり、行政側は策定のあゆみを見る限り実質半年以上もの時間をかけてつくりあげてきたのだから、受付期間を十分に設ける時間がなかったとの理由は成り立たない。 		
8	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 目標／指標目標未達の項目に関して、未達理由と要因分析、今後の取組みで検討すべき課題等が、施策課題カルテや評価シートから読み解けず、後期計画素案でも中期計画で判明した課題を解決するためにどう取り組んでいくのかがわからない。詳細を説明した上で、十分な期間を定めて意見公募してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 施策課題カルテや施策評価シートの内容については、今後、後期基本計画を推進していく中で、総合計画推進会議等でご意見をいただきながら、さらに分かりやすい表現となるよう努めてまいります。 	③意見として承ります
9	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 素案発表会にて配布された本日のプログラム等記載された資料の裏側「後期基本計画 策定のあゆみ」の最下部に、指標現状値調査の実施（～21日）と書かれている。そして後期計画素案に対する意見募集期間も21日までとなっている。意見内容如何に関わらず、素案記載を全く変えずに目標及び指標調査を実施するのか。もしそうであるならば、これは形だけの意見公募であり、パブリックコメント制度の根幹を捻じ曲げることにほかならない。表紙にも「市民の意見を取り入れながら」と記載しているがその体をなしていない。指標調査は意見公募の内容を踏まえた修正を加えた上で実施するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状、市民意識調査とパブリックコメントを並行して実施しており、市民の意識を問う内容の指標をパブリックコメント後に設定することは、スケジュール的に困難な状況となっています。いただいたご意見を踏まえ、市民意識調査とパブリックコメントの時期をずらすなど、第7次総合計画策定時には、計画策定のスケジュールについて再考してまいります。 	③意見として承ります

10	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> • 素案発表会でたかはま未来カフェをあたかも成功例のように話していたが、参加対象者は事前限定されたため、参加人数は20名程と、極めて低参加率であった。対象者を限定する意味と、対象者以外を排除するに足りる理由があったのか。参加希望者が低調となった時点で参加対象者を全市民とし、市政に興味のある人の参加を募って参加者を増やせば、より多角的・多面的な視点を踏まえた有意義な議論ができたのではないか。市民が総合計画に関われる機会は限られているがゆえに、非常に残念。 	<ul style="list-style-type: none"> • 今回のたかはま未来カフェでは、「一般公募では普段なかなか参加を表明できないという方にも、ぜひまちづくりに関わっていただきたい、まちづくりに関わる方の裾野を広げたい」という思いから、無作為抽出による参加者の募集とさせていただきました。参加者からは「大変有意義な時間であった」、「行政とともに市のことを考えるよいきっかけとなった」という好意的な意見が寄せられるとともに、行政にとっても市民の方から課題解決につながる建設的な意見・アイデアなどをいただくことができ、成果があったと考えております。 • しかしながら、ご意見いただきましたように、より多くの市民の皆さまに市政に関わっていただけるよう、今後、後期基本計画の進行管理においても、たかはま未来カフェのような市民参画の場、市民と行政との対話の場をつくっていきたいと考えておりますので、その際には一般公募も含め実施してまいります。 	③意見として承ります
11	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> • 市長が3期目に掲げられた公約は市民との約束です。吉岡市政期待しています。よって、公約は市の最上位計画に入るべき。今手元のパンフレットと見比べても、どこに記載されているかわかりません。それぞれ記載箇所を明らかにしてください。また、公約の進捗管理を行い、年度ごとに市民に公表してください。近隣市では 	<ul style="list-style-type: none"> • 公約に掲げる事業については、基本計画に掲げる目標達成に向けての具体的な行動計画を定めた「アクションプラン」に掲載し、その進捗においても、随時広報等で市民の方に公表していきます。 	③意見として承ります

		<p>きちんとしていますよ。一つひとつの情報公開を徹底し、透明で開かれた市政運営を望みます。より良い計画になるよう期待しております。</p>		
12	素案全般	<ul style="list-style-type: none"> 説明会にも参加しましたが、中川教授が指摘されるように、全体に、最後の4年間という位置づけにあるにも関わらず、その、“本気度”“厳しさ”という内容が感じられません。少なくとも、過去の前期・中期に出来たことと出来ていないこと、および問題点課題がしっかり述べられ、後期は、どのように解決していくのか、何を選択していくのか？市民に意見を求めるやり方が望まれるが、その内容が盛り込まれていません。当日の説明会にも表現されていませんでした。再度、内容を説明してほしいと考えます。念のため「審議会議事録を読んでくれ」という回答はしないで下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> 素案発表会では、限られた時間の中で全体の発表を行っており、前期・中期からのつながりや課題等が十分にお伝えできなかったことは否めません。 いただいたご意見を受け、後日、直接説明に伺わせていただいております。 	③意見として承ります
13		<ul style="list-style-type: none"> 市役所で購入するもの（税金）は、市在住、市で経営している店、市内企業で全て購入していただきたい。それが、また財源を増やすのですから。市民の負担にならないようお願いします。 	<ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体における調達には、その財源が税金によって賄われるものであるため、より良いもの、より安いものを調達しなければなりません。したがって、競争性、透明性、経済性等を考慮し、一般競争入札、指名競争入札、随意契約による方法により契約を締結する必要があり、すべて市内で調達することはできません。そうした中でも、地域活性化の観点から、公共工事や物品・その他委託について、市内業者が 	③意見として承ります

			入札や見積りに参加しやすい方法を検討し、市内業者の受注機会の拡大を図っております。	
14	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・指標に、前期・中期の実績記載なく、後期の目標値の空欄が多く、素案でも、現状値、目標値を記入後、市民に提示が適切では？ ・指標の項目の選択理由があまり明確ではなく、私には理解できていません。それは、冒頭で述べたように、何が出来ていて、出来ていない分野の課題が明確にされていないからだと思います。なおかつ、指標の現状値が表されていない理由も理解できません。取り上げた項目の現状の状態と、何%程度あげる事を期待しているのかさえ見えません。この意見集約後、そうした数値比率が表されることを期待しますが、少なくとも審議会の場で、なぜ伸ばす比率程度レベルは示されないのでしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、市民意識調査とパブリックコメントを並行して実施しており、市民の意識を問う内容の指標をパブリックコメント後に設定することは、スケジュール的に困難な状況となっております。いただいたご意見を踏まえ、市民意識調査とパブリックコメントの時期をずらすなど、第7次総合計画策定時には、計画策定のスケジュールについて再考してまいります。 ・「みんなで目指すまちづくり指標」の設定に際し、指標の設定理由や目標値の設定根拠等についてまとめた「指標設定シート」を作成しています。今後は、市民の方にも広く各指標の設定理由等について把握していただけるようホームページで開示していきます。 	②原案どおりと します
15	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・各年ごとの「実績値」欄は、不要と思います。逆に、優先順位、重みづけ、財政費用規模等の情報が必要です。常に、「費用対効果」の視点を、持って頂きたいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなことに取り組みます」の進捗状況、成果を測るためには各年で実績値を測ることが適当であると考えております。基本計画に掲げる取組みの優先度合い等の視点・記載については、第7次総合計画策定時に検討していきたいと考えております。 	②原案どおりと します
16	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・計画管理に PDCA サイクルを用いるなら、徹底的な現状分析が必要です。これが欠落した計画は、的外れが見えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり現状分析は重要であると認識しております。 	③意見として 承ります

17	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・「①基本計画」「②目標」と「③達成を図る指標」が微妙にアンマッチのような気がします。選定根拠が不明、かつ、疑問？ ・その成果測定も「%」表示で、一見、定量的に見えますが、実態は、調査対象者の感覚的、精神的状態を指数化という曖昧情報であり、かつ、サンプル数も、市民のごく一部ではないでしょうか？これをもって、市政施策の成果判定は、信憑性が疑わしいのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで目指すまちづくり指標」の設定に際し、指標の設定理由や目標値の設定根拠等についてまとめた「指標設定シート」を作成しています。今後は、市民の方にも広く各指標の設定理由等について把握していただけるようホームページで開示していきます。 なお、指標については、定量的に示せるものばかりではないことをご理解いただきたいと思います。また、市民意識調査の回収率については35%~40%程度で推移しており、成果判定としては統計学的にみても有効な調査となっています。 	③意見として承ります
18	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・財政負担や財政投入の規模を表示すべきと思います。絶対額では無く、ランク方式(A：一千万円/B：五千万円/C：一億円...)という表示でも良いかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政負担や財政規模については、事業費という形でアクションプランに掲載しております。 	③意見として承ります
19	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> ・前回と異なる目標を設定した項目につき、変更した理由・新たな目標の設定理由・新たな目標が基本目標の達成にどう関わるのかについて、説明していただきたい。 ・前回と異なる達成度指標を設定した項目につき、変更した理由・新たな指標の設定理由・新たな指標が目標の達成にどう関わるのかについて、説明していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで目指すまちづくり指標」の設定に際し、指標の設定理由や目標値の設定根拠等についてまとめた「指標設定シート」を作成しています。今後は、市民の方にも広く各指標の設定理由等について把握していただけるようホームページで開示していきます。 なお、指標については、定量的に示せるものばかりではないことをご理解いただきたいと思います。また、市民意識調査の回収率については35%~40%程度で推移しており、成果判定 	③意見として承ります

			としては統計学的にみても有効な調査となっています。	
20	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> 住民アンケートで問う内容に関して事あるごとに変えてしまうと、中長期の時系列でみて何が要因となって良化したのか悪化したのか分析不能となり、PDCAサイクルが回らず、結果として無駄な労力となってしまふことは必至。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本計画に掲げる目標や目標の達成度合いを測る指標については、まちの状況や社会情勢の変化等を鑑み、その都度見直しを行っています。4年間は同一の指標であるため、中期における指標の推移の要因分析については可能であると考えます。 	③意見として承ります
21	22 ページ 「みんなで目指すまちづくり指標」	<ul style="list-style-type: none"> 現在では様々な自治体が住民アンケートを実施しており、それが公開されている。全く同一の項目は少ないと思われるが、それらをメタ分析することで、具体的因果関係までいかないにしても、相当因果関係や高い相関関係がみられる目標・施策は探し出せるものと思われる。ある程度明確な根拠をもってして計画の目標・指標としていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 指標の設定に際しては、現在も他自治体の事例も参考としております。今後も他自治体の動向等も調査・分析しながら計画の策定を行います。 	③意見として承ります
22	28 ページ 目標(1) 目標フレーズ	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画に掲げたものの悪化が続いた目標「(1) まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます」を、中期計画にて改善傾向となった指標「いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合」の文言を用いて後期計画の目標「まちへの想いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります」に変更した理由は何か。悪化傾向で対処を要検討すべき項目を消し、良化傾向のある項目を加えるに足りる理由はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 中期では、まちづくり協議会等の活動も地域に根付き、市民のまちへの想いが定着してきたと実感しています。後期では、さらにその先の「いつまでも高浜市に住み続けたい」という気持ちを醸成させることが、まちへの愛着や誇りにつながる根幹になるものとの考えから、目標フレーズを変更しております。 	②原案どおりとします

23	29 ページ 目標（１） みんなで目指すまちづくり指標 「②地域活動に参加したことがある人の割合」	<ul style="list-style-type: none"> 指標「②地域活動に参加したことがある人の割合」は現状値 62.9%に対し 2021 年目標が 65%となっており、増加幅が誤差の範疇。また、2021 年目標（65%）は、中期計画における 2017 年目標と同じとなっている。目標値を改定すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見を踏まえ、現状もっとも地域活動に参加している割合が高い 50 歳代の現状値（69.4%）を最終年度の目標値とし、70%に変更します。 	①修正します
24	29 ページ 目標（１） みんなで目指すまちづくり指標 「②地域活動に参加したことがある人の割合」	<ul style="list-style-type: none"> 指標「②地域活動に参加したことがある人の割合」について、これでは過去に少し参加しても OKとなります。事業効果を測るのであれば、各年度に地域活動に参加した人を測定すべきでは。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート時の設問において活動期間の記載については検討してまいります。 	②原案どおりとします
25	29 ページ 目標（１） みんなで目指すまちづくり指標 「③市民と一緒にって地域活動に取り組んでいる職員の割合」	<ul style="list-style-type: none"> 指標「③市民と一緒にって地域活動に取り組んでいる職員の割合」と、中期計画で用いられていた指標「③地域活動に参加したことがある職員の割合」は同一内容であり、このような趣旨の項目を今後も用いるのであれば、時系列分析の上でも中期計画で用いられた指標を引き続き利用すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画では、例えば、職員が個人や職員同士でゴミ拾いなどの地域活動に取り組んでいる場合もカウントしています。その結果、平成28年度の実績値は92.1%と、中期計画の目標値80%を大きく上回ることとなりました。そのため、後期計画では、次のステージに進む必要があると考え、『市民と一緒にって』取り組んでいる地域活動に限定してカウントする指標に変更させていただきました。 	②原案どおりとします
26	29 ページ 目標（１） みんなで目指すまちづくり指標	<ul style="list-style-type: none"> 施策評価シートや施策カルテ1-3にて、「③地域活動に参加したことがある職員の割合」は「後期計画においても引き続き指標とする」、 	<ul style="list-style-type: none"> 指標の変更に伴い、素案の段階では、現状値の把握と目標値の設定が済んでいなかったためであります。 	③意見として承ります

	くり指標 「③市民と一緒に なって地域活動に取 り組んでいる職員 の割合」	かつ「すべての職員が地域活動に参加する必要 があるため、後期計画では目標値を育児休業者 や病気休暇者を除き、100%とする」と明記 しているにも関わらず、なぜ素案では目標値が 空白になっているのか。	なお、次回の総合計画審議会において現状値と 目標値を示させていただくことを予定してお ります。	
27	29 ページ 目標（1） みんなで目指すまち づくり指標 「③市民と一緒に なって地域活動に取 り組んでいる職員 の割合」	・地域活動に取り組んでいる職員の割合は、総合 計画推進会議会長の中川幾郎氏のいう、目標や 基本目標達成のためのアウトカム（成果）指標 なのか。	・後期計画では、「職員が、地域課題解決に向け て、市民や地域と一緒に取り組むこと」 を目標としています。この目標の達成に向けて は、「職員の意識改革」や「職員が地域に関わ るきっかけづくり」を実践研修などの機会によ り身に付けてもらうことが大切です。そのた め、これらの研修機会の回数や参加人数をアウト プットとして位置づけ、『市民と一緒に なって地域活動に取り組んでいる職員の割合』と して職員の実数を把握することをアウトカム（成 果）指標とすることは、目標の達成度を計る指 標として相応しいものであると考えておしま す。	②原案どおりと します
28	目標（1）	・広報たかはまが、市・公民館にアーティスト（音 楽）を呼ぶ、市・公民館行事、1年間、半期、 文化活動を載せるような掲示板になればいい かなと思います。	・現在も広報の表紙の裏に毎月の行事カレンダー を掲載していますが、ご意見いただきましたよ うに限りある紙面の範囲ではございますが、市 内で行われる行事を広くお伝えできるように していきたいと考えております。	③意見として 承ります
29	30・31 ページ 目標（2）全般	・過去の財政状況や、指標、前期・中期の実績記 載無く、「後期」だけを取上げて、財政企画・ 目標管理はありえないと思います。	・素案策定にあたっては、前期・中期基本計画の 施策評価結果、課題等を洗い出した施策課題カ ルテ、市民の声など、課題等を抽出し、高浜市	②原案どおりと します

			にとって今、何が必要かを考え、策定を進めてまいりました。	
30	30・31 ページ 目標（2）全般	<ul style="list-style-type: none"> ・財政は高浜単独では分かりづらく、他の先進的な自治体も比較指標として取り上げ記載すべきかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済新聞社デジタルメディア局発行の全国都市財政年報によると、平成 27 年度末の本市の経常収支比率は 88.0%で、全国ランキングは 790 市中、286 位となっています。こうした状況を踏まえ、本市財政の弾力性を確保するために必要な目標値を設定しております。 	②原案どおりと します
31	30・31 ページ 目標（2）全般	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に理解容易な「予算説明書」を全世帯に配布が、市民監視による財政管理を可能ならしめるものと思います。他の自治体では実施されている例もあるとか。（北海道・ニセコ町） ⇒市民の知りたい財政情報の発信媒体として適切だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政情報が必要な方に必要な情報が伝わるように努めてまいります。 	③意見として 承ります
32	30・31 ページ 目標（2）全般	<ul style="list-style-type: none"> ・全体として、財源確保や公共施設総合管理計画が滞りなく実施できるよう、市民に理解を求めている趣旨であり、基本目標「みんなで考えみんなで汗かきみんなのまちを創ろう」という市民参加による財政運営を目指すあり方とはかけ離れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な基礎自治体をみんなで創り上げていくことが大切であり、財政情報の発信や公共施設の再編・改修による長寿命化等の取組みがご理解いただけるように努めてまいります。 	②原案どおりと します
33	30・31 ページ 目標（2）全般	<ul style="list-style-type: none"> ・責任を明確にせず、追加的支出に至った経緯や金額の根拠や算出方法などの説明もせず、上記のような行政側の不手際による損害により経常収支比率目標の達成が困難となった際に、市民サービスの削減という形でしわ寄せがくることは何があっても許されない。行政側の不手 	<ul style="list-style-type: none"> ・予算については、市議会において議決された上で執行しており、正当な手続きを踏んでおります。 	③意見として 承ります

		際などの不都合な事実を積極的に公表することを通じて財政運営の透明性を高めることこそが、市民にとって「将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合」を嘘偽りなくして高める一つの大きな要因になりうるのではないか。		
34	30・31 ページ 目標（2）全般	<ul style="list-style-type: none"> 高浜小学校の建築運営費に関して当初計画と比べ大幅に増額した契約金額のほか、市役所のアスベスト対策・中央公民館の解体時におけるアスベスト対策や地下水対策など、当初計画との大幅な乖離が起きた計画や、予見できた事象につき対応を取らずに不要な追加工事を行ったことによる追加的支出に関する責任を明確にしなければ、「限りある財源のより効率的・効果的な活用」はできないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から、事業の見直し等を進め、限りある財源の効率的・効果的な活用に努めております。 	③意見として承ります
35	31 ページ 目標（2） みんなで目指すまちづくり指標 「①経常収支比率」	<ul style="list-style-type: none"> 指標「①経常収支比率」は「75%以下」が適正、適切では？80%台維持で「横ばい」目標は不適切かと思えます。一般企業の経営であれば、上昇改善が経営者の使命です。適正值 75%未達の財政では、別途、市民説明が必要と思えます。これが経営目標とは言えないと思えます・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、少子高齢化や教育の振興など行政需要が複雑多岐にわたり、全国的にみても経常収支比率が 75%以下となっている団体は 791 市中 3 市と少ないのが現状です。目標値の設定に当たりますは、現在実施している行政サービスとのバランスを考慮しながら設定しております。 今後少子高齢化等により、財政需要の増が見込まれますが、80%台を維持し財政の弾力性を確保するという目標といたしております。 	②原案どおりとします
36	31 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率を指標に掲げているが、指標目標 	<ul style="list-style-type: none"> 経常収支比率を改善するためには、歳入の確保 	②原案どおりと

	目標（２） みんなで目指すまちづくり指標 「①経常収支比率」	を確実に達成するために行政各部に対する予算の減額調整など、どこまで実効性のある仕組みができており、また手法がとれるのか。	と歳出の削減が必要です。これまで、歳入の確保では、工業用地の創出に向けた取り組みや市税徴収率の向上に向けた取り組みを進めております。一方、歳出の削減では、長期財政計画に掲げる見直し事業の着実な推進や施策評価等により事業の見直しを進めております。今後も事業効果の低いものは事業の組み替えや削減を行うなど、事業の見直しと重点化を図ってまいりたいと考えております。	します
37	31 ページ 目標（２） みんなで目指すまちづくり指標 「①経常収支比率」	・「借入金」や「市債発行額」は財政管理に必要な指標では？特に、財政面は、より透明性、有効性を求められます。	・市債（借金）残高は、財政運営に必要な指標と捉えておりますが、平成 27 年度の全国ランキングでは 790 市中、27 位と本市は標準財政規模に対する市債（借金）残高が少ない状況にあり、後期の指標とはいたしておりません。	②原案どおりと します
38	30・31 ページ 目標（２）全般	・市庁舎等の公共施設の維持管理費も公表されるべきと考えます。	・光熱水費や設備の保守点検委託料等の維持管理費につきましては、毎年度決算における主要施策成果説明書に記載しており、主要成果説明書については、市役所財務グループ及び高浜市立図書館でご覧いただくことができます。	③意見として 承ります
39	30・31 ページ 目標（２）全般	・歳入・歳出のバランスのとれた財政運営に取り組むとされています。しかし、例えば、新プールの委託費は、「200万円」が「800万円」に増額の見込みのようです。公表されていないことが残念ですが、計画段階の事業費の増加や財政効果を計算されているのでしょうか？	・現在、勤労青少年ホーム跡地活用事業の事務を進めているところです。事業費については、事業者が決まり、事業契約により具体化するもので、現在のところ、お示しすることはできません。なお、新プール委託費が800万円に増額見込みとのことにつきましては、プールLCC（施設ライフサイクルコスト及び運営ライフ	③意見として 承ります

		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館解体や庁舎解体は工事が始まってから追加費用が発生しています。計画で審議した財政効果の範囲に収まっているのでしょうか？追加費用を認めるのであれば、計画段階で財政効果のためと説明しているので、アスベストが出たとか、水が出たからしょうがない、のではなく財政効果があると言っていたかかないといけないのでは？また、「問題を次の公共施設整備では起こさない」と言っていたかなければ市民は納得も安心もできません。小学校整備もプール整備も、また追加費用が発生して、財政効果の議論はなくなり、発生した問題は予見できなかったと言いつけをされるのは勘弁してもらいたいものです。 ・施設計画において、財政効果で一体いくらまでなら効果があるか説明していただかないと、事業が進んでまた庁舎解体のように事業費の5割も追加費用が必要になった時にもう事業に取り掛かっているから財政効果がなくてもやめられないとか言われませんか心配です。今後、小学校整備もプール整備も、巨額の追加費用の発生防止措置を、行政自らの管理課題として注力いただくことが責務と思います。 	<p>サイクルコスト)の目安として参考にすべき金額と考えますが、委託料とは異なります。委託料につきましては、先述のとおり事業契約により具体化していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館や旧庁舎の解体工事の追加費用については、当初から判明していたら当初の事業費に含めて契約していましたので、予見できなかった事態に対応するための必要な支出であり、余分な費用が発生したものではありません。 ・今回の事例を教訓に、今後の解体工事におきましては、事前のアスベスト調査、その他必要な調査を行うよう、庁内において情報共有を図っていきます。 ・最小経費で最大の効果が発揮できるよう行政運営に努めているところです。 	
40	30・31 ページ	<ul style="list-style-type: none"> ・ホール解体は、観光資源力を低下せしめる判断 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用の仕方にもよりますが、高浜小学校のメイ 	②原案どおりと

	目標（２）全般	<p>でした。例えば、今後「イベント事業」の企画案があっても、小学校の体育館では、人を呼べないと思います。とても恥ずかしい街に転落です！結局、高浜市では興行企画は、まったく不可能な街になってしまったと思います。もう戦後ではありません。</p>	<p>ンアリーナでは、中央公民館と同規模の収容が可能です。また、３００人が座れる移動式観覧席を設置いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央公民館ホール解体による観光資源力の低下とのご意見ですが、イベント等は様々な市民・団体等が主体となって、市内の至る所で行われております。施設がまちの魅力を高めるのではなく、まちで起こっているコトやひとが魅力を高めると考えております。 	<p>します</p>
41	30・31 ページ 目標（２）全般	<ul style="list-style-type: none"> 目標（２）は、公共施設の関係で市民の関心が高いと思います。公共施設についてこの４年間でどうなるのか、後期基本計画の中で改めて明らかにすべきでは。こうしたプロセスを市民に丁寧に示さないから不安が高まるのでは。また、公共施設の今後のあり方について市民説明会を開催すべき。市民説明会の開催回数などを指標にしては。 	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は今後４年間で市が目指すべき方向性を定めたものであり、個々の事業の詳細を載せることは性質上異なると考えます。そうした中で、公共施設総合管理計画を推進していく旨の記載をしております。公共施設についてのこの４年間については、「アクションプラン」や毎年度の予算、公共施設推進プランで具体化していきます。 市民説明会の開催については、まちづくりトーク＆トークなどにより、希望される方の要望の日時・場所に合わせて市が出向いて説明していくこととしています。 公共施設の問題は、財政問題がその背景にありますので、「将来を見据えた財政運営が行われていると思う人の割合」を指標として定めてまいります。 	<p>②原案どおりと します</p>
42	30 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 「公共施設管理に経営の視点を取り入れ、真に 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設総合管理計画では、全体方針を「高浜 	<p>②原案どおりと</p>

	<p>目標（２） 目標達成に向けての考え方 「公共施設管理に経営の視点を取り入れ、真に必要な公共施設サービスを持続しつつ」</p>	<p>必要な公共施設サービスを持続しつつ」とあるが、市役所・小学校・青少年ホームと立て続けにPFI方式をとり、民間に施設経営を任す状況が続いている。市が公共施設の経営に関し積極的な関与をしない傾向となっており、文言と矛盾するのではないか。</p>	<p>市の次世代に向けた公共施設マネジメントの確立・発信」としており、これを目指す取り組みとして、5つの基本方針を掲げており、その一つに経営の視点を取り入れ、新たな運営方式として、より効果的かつ効率的な公共施設マネジメントの実現を図るため、民間のノウハウや活力の導入を図るとしています。ご意見にあります施設につきましては、経営の視点を取り入れ、基本方針に基づき、民間活力・ノウハウを取り入れているところです。</p>	<p>します</p>
43	<p>30・31 ページ 目標（２）全般 34・35 ページ 目標（３）全般</p>	<p>・29年度は、市民ホール解体を強行された年でした。この市、唯一の文化施設の解体をもって、文化の輪を広げ、まちの力をはぐくみます。とは市政としてあるまじき失政と思います。 この結果、愛知県内でも稀有な「ホールが無い市」に転落では？これで「愛着や、夢・希望を持って」とは市民や子どもらの感覚と大きなズレがあることをご認識いただきたいと思います。 誠に残念な市政であることをご自覚願いたいと思います。</p>	<p>・市が進めています公共施設の再編・最適配置は、次世代の市民に安定して行政サービスを提供するための取り組みであることをご理解願います。</p>	<p>②原案どおりとします</p>
44	<p>30・31 ページ 目標（２）全般 34・35 ページ 目標（３）全般</p>	<p>・総合計画において「市民ホール解体」はどの段階で計画されていたのでしょうか？どこに書かれているのでしょうか？市庁舎を含め、総合計画に「施設建設計画」が数行しか記載されていないのは、手落ちのような気がします。</p>	<p>・後期基本計画は今後4年間で市が目指すべき方向性を定めたものであり、個々の事業の詳細を載せることは性質上異なると考えます。そうした中で、公共施設総合管理計画を推進していく旨の記載をしております。ご意見にありますことについては、アクションプランや毎年度の予</p>	<p>③意見として承ります</p>

			<p>算、公共施設推進プランで具体化しています。平成26年度策定しました「公共施設あり方計画（案）」の推進プランにおいて機能移転する施設として明記しています。また、市総合計画においても、公共施設総合管理計画を着実に推進していくことを記載しています。個々の施設については、推進プランや個別施設計画等でお示ししてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学び・文化・スポーツの活動は「いつでも・どこでも・だれでも・いつまでも」を基本的な考え方としています。公共施設に限らず、家庭・地域・職場など多様な場で行われることによって活動の輪が広がり、人と人とのつながりが育まれていくものと考えております。 • なお、中央公民館ホールの代替機能として、かわら美術館ホールやいきいき広場ホール、学校体育館などが活用され、音楽や舞踊などの芸能発表、講演、集会などが行われております。 	
45	34・35 ページ 目標（3）全般	<ul style="list-style-type: none"> • 中期計画にて設定したすべての指標・目標につき、中期計画設定当初と比べて数値が悪化した理由は何か分析が不十分であるため、それへの対処法が効果的か疑問。 • 施策課題カルテ3-1にて、「高浜市に愛着や誇りを持っている人の割合」が減少した理由につき、仕事が多忙な30・40代で数値が悪いとか、居住年数の長短の影響、公共施設集約化 	<p>◆指標の低下要因の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 指標は、「目標」や「目標が達成された姿」（後期では「この目標が目指す4年後のまちの姿」）の達成度合いを示す目安として設定しているものです。しかし、指標実績値の上昇・低下は、必ずしも施策の取組効果といった内部的要因だけでなく、社会経済情勢など高浜市の取組みの範囲を超えた外部的要因などの影響を受け 	③意見として 承ります

		<p>で市民に誤ったイメージを与えている、といったことを要因としているが、根拠がわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30・40代が多忙だからといってもそれは以前も同じだし、また、総労働時間はバブル期をピークに長期時系列で減少基調となっている。居住年数の長短が要因なのであれば新参者にとって住みにくいまち以外の何ものでもなく、市全体として早急に対策を練らねばならない。公共施設集約化は、集約対象となった施設・集約場所・建設価格など、説明が極めて不明瞭であり、また集約化までの代替施設もないものもあり、当初の計画通りの実施以外の選択肢はない集約化計画と揶揄されても仕方のないものである。また、施策課題カルテにて「施設利用者等の思いに寄り添いながら複合化集約化の検討を進めていくことが重要」とあるが、利用者の思い次第で集約化計画の変更も含めて検討されるのか。 	<p>ることもあり、多面的であると捉えております。施策課題カルテには、内部的要因として考えられる主な要因の分析等を記載し、将来の高浜市のあるべき姿を見据えた上で、今後の取り組みの方向性として「こんなことに取り組みます！」を掲げております。</p> <p>◆公共施設の再編について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の再編は「公共施設総合管理計画」に基づき、計画的に進めてまいります。機能移転により複合化・集約化される施設については、定期的に施設を利用されている方・団体に対して、施設の今後の方向性をご説明していくほか、代替機能を持った施設等を紹介し、必要に応じて相談に応じるなどの対応を進めてまいります。 	
46	<p>35 ページ 目標（3） こんなことに取り組みます！ 「市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・・・）を掘り起こし、守り、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民ホール解体判断」と矛盾の目標設定は不適切では？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなことに取り組みます！」の1つ目、「市民とともにまちの魅力・自慢（歴史・文化・伝統・産業・景観など）を掘り起こし、守り、伝え、活かしていく活動を強化します」は、「高浜市が好き」「誰かのために役立ちたい」「住んでいるまちをよりよくしたい」といったまちづくりの原動力を育てていく取り組みの一つです。 	<p>②原案どおりとします</p>

	伝え、活かしていく活動を強化します」		まちづくりを行っていく上では、人々の暮らしや産業の移り変わりなど、先人たちがどのようなあゆみを進めてきたのかを知ることが大切です。まちの成り立ちやあゆみを知ることができる資料の保存や、人々の中にある記憶の記録化などを市民とともに取り組む「市誌編さん事業」などを想定しており、「目標」や「この目標が目指す4年後のまちの姿」の実現に合致していると考えております。	
47	35 ページ 目標（3） こんなことに取り組みます！ 「市民の知りたい・やってみたい・役立ちたいを応援し、市民同士が学び合い、高め合う場づくりを進めます」	<ul style="list-style-type: none"> 市民が自主的に学ぶ環境の整備について、どうしていくつもりなのか。 <p>かつてジャーナリストの大谷昭宏氏や伊藤忠商事の丹羽宇一郎氏を招き、市民の啓蒙活動にも使われていた市民センターは解体され、市民の学びの場の主役となる図書館は立地が悪く蔵書が少ない他、閲読・勉強スペースが減らされて非常に使い勝手が悪い。将来的に高浜小学校に機能移転するという計画らしいが、現状と比べ敷地面積の観点から更に「市民の学びの場」としての機能はなくなることも容易に想像できる。少なくとも立地の観点から、市の中心部につくれないか。現状や高浜小学校での立地・施設規模では、「学びの場」機能を求める者は、交通の便からも吉浜・翼学区の人は刈谷市立図書館、高取学区は安城南図書館、港学区でも碧南市立図書館を利用する人が多いので</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆学ぶ環境の整備について <ul style="list-style-type: none"> 「市民同士が学び合い、高め合う場」は、単に空間的な場所のことだけでなく、機会も含めて表現しています。公共施設に限らず、家庭・地域・職場など多様な場で、また、行政だけでなく、市民・団体・事業者など多様な主体による多様な学び合いの機会が設けられることによって、活動の輪が広がり、人と人とのつながりが育まれていくものと考えております。 ◆図書館の機能移転について <ul style="list-style-type: none"> 図書館の機能移転先は、高浜小学校ではありません。本市における公共施設の今後の方向性等をまとめた「高浜市公共施設総合管理計画」及び総合管理計画の推進に向けた年次計画である「平成29年度公共施設推進プラン」では、図書館は現施設から機能移転させ、他の施設と 	③意見として承ります

		<p>はなかろうか。利便性や効果を含めて再検討していただきたい。</p>	<p>の複合化を図ることとされております。これまで培ってきた「子どもに特化した図書館」という強みを活かした上で、図書や図書館を取り巻く新たな潮流も踏まえ、子どもの育ちやまちづくりを支える機能を重視するなど、「高浜市らしい図書館」を検討してまいります。</p>	
48	<p>35 ページ 目標（3） みんなで目指すまちづくり指標 「②将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指標「②将来の夢・希望・目標を持っている子どもの割合」の現状値に、中期計画における指標「将来の夢を持っている子どもの割合」の数字が使われており、時系列分析をする上で不適切であるため、中期計画で用いた指標の文言を「将来の夢を持っている子どもの割合」をそのまま使うべき。素案発表会では、変更理由につき、学年が上がるにつれて夢という言葉が安易に使いにくくなるという趣旨の説明をしていたが、その事実の基礎は以前と変わらないのであって、中期計画設定当初（2013年）81.1%だった数値が2016年には76.1%となり悪化した事実をしっかり目を向けるべき。 目標値の達成を容易にするためだけの安易な指標設定にしても、子どもの将来に対する思いは変わらない。新たな指標では、「夢」とはいえないまでも「希望・目標」なら該当するような子どもの数値が上乘せされるため、目標値は場合によっては初年度に達成できてしまう。そのような指標に意味はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 指標は、「目標」や「目標が達成された姿」（後期では「この目標が目指す4年後のまちの姿」）の達成度合いを示す目安として設定しているものです。しかし、指標実績値の上昇・低下は、必ずしも施策の取組効果といった内部的要因だけでなく、社会経済情勢など高浜市の取組みの範囲を超えた外部的要因などの影響を受けることもあり、多面的であると捉えております。 「将来の夢を持っている子どもの割合」の実績値が伸び悩んでいる要因は、大人になることへの不安、目標や希望が持てないなど、施策の取組効果が必ずしも十分に及んでいないといった内部的要因だけでなく、先行き不透明な将来社会に対する不安、経済成長の実感が得られにくいといった外部的要因の影響も受けていると捉えております。行政だけでなく、市民・団体等の取組みとも連携し、「目標」や「この目標が目指す4年後のまちの姿」の実現を目指してまいります。 	<p>②原案どおりと します</p>

			<ul style="list-style-type: none"> • なお、指標については素案 59 ページ、第 4 章「計画の進行管理」に記載のとおり、施策の進捗や情勢の変化等により、必要に応じて見直しを行っていくこととされています。 	
49	目標 (3)	<ul style="list-style-type: none"> • 体育館、夜の使用 (スポーツ) をもっと広げてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> • 体育センターの開館時間は午後 10 時までとなっており、学校開放事業 (学校体育館利用) は午後 9 時までとなっております。近隣市町と比較しても利用可能時間は短くないことから、現行どおりの運営としてまいります。 	③意見として承ります
50	36・37 ページ 目標 (4) 全般	<ul style="list-style-type: none"> • 高浜小学校の建替えやその使い方に関する記載がないですが、この 4 年間で市の重要な事業だと思います。なのに総合計画の中に全然記載がないのはなぜですか？総合計画に掲載するほどの取組みではないということですか？ 	<ul style="list-style-type: none"> • 高浜小学校整備事業については、公共施設総合管理計画のもと、機能の複合化により学校教育だけでなく、生涯学習、地域活動等も大きく関係してきます。本件については、総合計画の中では、基本目標 I、目標 (2) で述べられ、その目標に基づき事業を進めています。 • 具体的な取組内容については「アクションプラン」の中で位置づけています。 	②原案どおりとします
51	36・37 ページ 目標 (4) 全般	<ul style="list-style-type: none"> • 中期計画にて、指標の数値目標が達成できたにも関わらず目標「(4) 学校・家庭・地域が連携を深め 12 年間の学びや育ちをつなげます」の住民アンケート結果が 2013 年時 61.5% に対し 2016 年時には 58.8% となった理由と要因をどう考えているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 高浜カリキュラムや異校種間連携推進活動、異校種参観などの取組みに対する周知が不十分だと考えています。取組みの内容については、成果をあげていますので、このまま進めてまいります。周知することが目的ではなく、子どもの 12 年間の学びをつなげることが目標ですので、取組みの改善を続けることで、時間をかけて知名度をあげ、数値の改善につなげたいと思います。現状の連携に関する取組みや周知につ 	③意見として承ります

			<p>いて以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校・家庭・地域の連携については、学校では常日頃からご家庭の協力を仰ぎながら、ともに、子どもの学習や行事の充実に努めています。また、学校の様子や取組みにつきましてもホームページや学年便りなどでお知らせするとともに、学校公開日も定期的に行い、開かれた学校を目指しております。また、学校評価委員会における有識者からの意見も参考にし、子どもがよりよい学校生活を送り、成長できるよう、鋭意努力しております。現状では、こういった取組みの周知先は保護者中心です。まずは、その保護者に「学びのつながり」を分かりやすく示したいと思えます。 • 地域との連携では、生活科・総合的な学習の時間で行う高浜カリキュラムを含めた様々な活動があります。例えば吉浜の「菊」や高取の「稗田川」など、地域資源を通して、子どもが地域に学び、地域を大切にし、誇りに思えるよう、成長を促したいと考えています。高浜市の6年生は高浜カリキュラムによってすべての学校で防災について学び、地域の防災に協力しようとする態度を育みます。そのような地域愛は、活動後も子どもの心に生き続け、中学校への進学後も自主的に防災活動を行う生徒もいます。この取組みの周知先も保護者が中心となりま 	
--	--	--	---	--

			<p>すが、子ども自身が「学びのつながり」や「地域の連携」が実感できるよう、改善を進めます。今年度、高浜カリキュラム 12 年間分のモデルプランが完成しました。前述しましたように、地域の人、物、ことに焦点をあてた高浜カリキュラムをよりよいものへと改善していくことで、知名度をあげ、数値の改善につなげていきたいと考えています。</p>	
52	36・37 ページ 目標（4）全般	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を対象としたアンケートはどのような方式で実施しているのか。学校で配布し、その場で回収する方式では、アンケートの回答の秘密が守られるとは言えない。加えて教師の目を気にして正直に答えにくいいため、本心とは異なる回答をしてしまうことになりかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでは、教員がアンケートの趣旨や意義、質問内容の説明をせず、子どもの読み取りに任せて実施していました。従って、子どもが身につけた学びや、学びに向かう力について子ども自身が、無自覚のままアンケートに回答することがありました。 児童・生徒の意識や行動に関するアンケートはいじめアンケート等の秘密を厳格に守らなければならないものとは性質が違い、これまでの自分の学びをふり返り、自分や周りの状況を幅広く視野に入れ、よりよい自分、よりよい社会を創るという目標を実現するために行うものです。つまり、その結果だけを見るのではなく、アンケートを行う、そのこと自体に大きな意義があると考えています。そのため、教員が子どもの発達段階に合わせ、アンケートを実施する際に地域社会と共有している目標について説明したり、アンケートの実施に合わせてクラス 	③意見として 承ります

			<p>でよりよい自分や社会について話し合い、意見交換をしたりする必要があります。児童・生徒の意識や行動に関するアンケートが、自分や周りの学びに気づき、人生を切り拓く力を明確化させる一つのきっかけとなればと考えています。</p>	
53	36・37 ページ 目標（4）全般	<p>・「この目標が目指す4年後のまちの姿」に「子どもが主体的・対話的で深い学びをしています」「個に応じた教育を受け、個性を伸ばさせています」と述べて子どもの主体性を強調する一方、「こんなことに取り組みます！」には「活用型のカレンダーを使って、高浜市が育てていきたい子どもの姿を周知します」と、子どもの画一的成長を促すような文言が書かれているが、前者と後者で著しい矛盾が生じているのではないか。</p>	<p>・カレンダーに示した、高浜市が育てていきたい子どもの姿のゴールは、</p> <p>①礼儀として、場に応じたあいさつ、言葉づかい、身だしなみを心がける姿</p> <p>②地域愛として、家庭や地域を大切に思い、役に立つことを進んで行う姿</p> <p>③学習習慣として、友達の考えを聞いて、自分の考えに生かす姿</p> <p>④読書習慣として、様々な本を読むことで、自分の世界を広げる姿です。</p> <p>・この目標は、子どもがコミュニケーション能力を高め(関連①②③④)、自分で考える力を育み(②③④)、挑戦する力(②③④)をもつと同時に、それらの力を支える知識を自ら学ぶ(③④)ようになってほしいという願いが込められています。従って、子どもの主体性を促す目標との矛盾はありません。また、前述の願いをかなえるためには、学校・家庭・地域の目指すベクトルを同じにし、実現するために、それぞれがどのように関わっていくかを考え、実現を図ってい</p>	②原案どおりと します

			<p>くことが大切です。これからの時代は、技術革新やグローバル化の進展に伴い、産業構造や社会の変化が激しく、将来を予測することが難しい時代となってきます。子どもたちに必要な知識の例えとして、これまでの「ジグソーパズル」型知識から、「レゴブロック」型知識への移行が重要だと唱えられています。この例えからも言えるように、これからの子どもは、答えのない問題に立ち向かい、自分の考えを表現する力を育むことが特に必要です。そこで、主体的・対話的で深い学びを実践し、コミュニケーション能力や学びに向かう力を育む必要があるのです。また、対話には友達との関わりに加えて、本やデータ、自分自身も含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今後は、教員だけでなく、子ども自身も何を理解しているか、何ができるか、理解していることをどう使うかを考え実践することが求められます。そして、何かに挑戦する強い心によって個性を伸ばさせていくことが重要なのです。 	
54	36 ページ 目標（4） 目標フレーズ	<ul style="list-style-type: none"> • 「学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます」の目標フレーズについて、“12年間”を“生涯の”に変えてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげる意義は、端的に言うと、教育基本構想の目標を見据えた「高浜を誇りに思い、たくましく生きる力」を育むためです。そして、12年間の学びをつなげるには、教員の意識が最も重要なカギとなります。目の前の子どもが自分自身の成長を感じ、ついた力を自覚 	②原案どおりと します

			<p>していること、それを表現できること、教員が、それを受けとめ、どのようにいかすか子どもと いっしょに考えること、今後どのようになって ほしいか、どんな力をつけてほしいかを子ども に伝え、共に成長することです。15歳で卒業 していく時に、子どもが自分や高浜を誇りに思 っていること、人生で苦難を受けたり、困難に 出会ったりしても、切り抜く知恵や、生き抜く 力をもっていること、何より、教員が共通の最 終目標を掲げながら、子どものつけてきた力を 尊重し、子どもの実態に合わせてつけない力を 考え、方法を工夫し、できる限りのことをして 目標に近づけ、次につなげるという意識をもつ ことが重要です。このためには、目標を明確化 し、組織的・計画的に取り組む必要があります。 生涯にわたって子どもが自分の力を生かして 生き抜けるよう、その力を育む基盤となるのが 12年間の学びなのです。</p>	
55	<p>37 ページ 目標（4） みんなで目指すまちづ くり指標 「①自分や周りのよさを認める子どもの割合」</p>	<p>・指標「①自分や周りのよさを認める子どもの割合」でいう「よさ」とは何か。身体的・精神的・学問的なものなのか。 「よい」の反対は「悪い」であると考えてるのが真っ当だと思われるが、「よい」ことができないことが「悪い」とみなされかねない。その結果「4年後のまちの姿」に掲げている「個性を伸長」させることとは逆の画一的教育を招いた</p>	<p>・新学習指導要領の総則前文から、「よさ」を次のようにとらえています。 ①一人一人が自分の可能性を認識すること ②あらゆる他者を価値のある存在として尊重すること ③多様な人々と協働すること ・各学校では、一人一人の子どもが「様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持</p>	③意見として承ります

		<p>り、体の不自由や病気・精神的障害を抱えた子どものみならず、家庭環境等自分で抗うことのできない事情により勉強等ができない子どもが不当に虐げられたり、いじめの対象となってしまうのではないか。</p> <p>代替案として、「自分と周りのひととの違いを認め合える子どもの割合」「周りの人たちの意見を踏まえながら、自分の考えを深めていくことのできる子どもの割合」「周りの人たちと協力し合って課題に取り組める子どもの割合」の組み合わせなどの方が適切ではないか。</p>	<p>続可能な社会の創り手となることができる」よう、必要な資質・能力の育成に努めることが求められています。もとより教員は「よさ」を限られた一部分の成果と捉えることなく、主題研究などで子どものよさをどう捉えるかについて多面的に考えたり、研修をしたり、話し合ったりしています。また、よさをどう引き出すかなどの研究を深めております。申し上げるまでもなく、新学習指導要領の勉強についても行き、その趣旨や意義を理解し、子どもに還元できるように、努めております。引き続き、すべての教員が、新学習指導要領の総則の特質を理解し、前文の内容を十分に把握できるようにし、その上でアンケートを実施し、子どもに誤解が生じないようにします。</p>	
56	<p>39 ページ 目標（5） みんなで目指すまちづくり指標 「①子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」</p>	<p>・子育てに関する実感の指標としての有用性を確保するため、指標「①子どもを産み育てやすいと感じている人の割合」の住民アンケート対象は、現に高校生や中学生以下子どもを抱えている世帯に限定すべき。また、補助的に上記子どもがいる世帯に加えて、夫婦2人だけで暮らしている女性の年齢が40歳以下程度の世帯を対象に、どういった要因が子どもを産むことの妨げとなっているか把握し、実効性のある施策立案に活用していくべき。</p>	<p>・ご意見をいただきました子育て世代へのアンケートについては、子ども・子育て支援事業計画の策定の際に実施していますので、よろしくお願ひします。</p>	<p>③意見として承ります</p>
57	<p>39 ページ</p>	<p>・指標「②子どもに対して理解のある大人の割合」</p>	<p>・ご意見のとおり、指標②については、子どもを</p>	<p>②原案どおりと</p>

	<p>目標（５） みんなで目指すまちづくり指標 「②子どもに対して理解のある大人の割合」</p>	<p>は指標として不適當であり、かつ何をもって「子どもに対して理解のある」としているのか不明であるため修正すべき。このような指標を策定する上では、現に子育てをしている夫婦や子ども自身がどう感じているかという当事者の実感こそが重要で、当事者の実感の改善こそがアウトカム（成果）指標を設定する上の必要条件。</p>	<p>対象にしたアンケートの実施により、割合を測ることとしております。</p>	<p>します</p>
58	<p>39 ページ 目標（５） みんなで目指すまちづくり指標 「③待機児童数」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童数の現状値 17 人という数字は、いつ時点でどのようなカウントの結果出てきた数字でしょうか。また、待機児童数のカウントは高浜独自のカウント方式ですか。それとも全国統一の基準でのカウントでしょうか。この 17 人の待機児童の方はその後どうされたのでしょうか。（保育園の空きを待っている、幼稚園入園に切り替えた、保育園入園を取りやめたなどあると思いますが） 正社員で共働きだと、申し込めば保育園に入ると子ども 1 人目のママさんとは思っていて、情報収集が遅くなりがちで、高浜市は待機児童が出ているという実態を知らない方が多いのではないのでしょうか。出生後届けを出すときや、4 ヶ月健診などの会場で、保育園の情報をもらえる場があると、仕事復帰のタイミングを考えながら保育園入園についてどうするかも考えられるのではないのでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童の現状値は、国の基準に基づく、平成 29 年 4 月 1 日現在の人数です。待機の方は、引き続き、保育園等の空きを待たれることが多いので、空きが出来次第、順にご案内をしています。 平成 29 年 1 月以降、こども育成グループの窓口がいきいき広場に移転してから、乳幼児健診などのついでに、保育園の入園相談の件数が増えています。園の受け入れ状況は随時変化しておりますので、その都度、こども育成グループの窓口でご相談いただくことをお勧めしております。 	<p>③意見として承ります</p>

59	38・39 ページ 目標（5）全般	<ul style="list-style-type: none"> 市の財源の支え、一人ひとり豊かな気持ちで過ごすことができるように、大切なことと理解しているはずなのに、待機児童（働きたいが“働く”という申請ができない）ゼロでないこと。不登校・いじめも、この小さな幼児期の子を持つ大人の（親の）考えが大切ではないか。大人が、市長が、市議会の方がここに着眼していただきたい。その考えが、その過程で目標（4）の「学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます」や目標（3）の「学び・文化・スポーツの輪を広げ、まちのチカラを育みます」このチカラをつくるのではないか。結果、大人になり、就職するとき、経営者としてこの高浜を、この高浜で過ごしたい元気なまちにしたいと思う若者を育成していくことが大事ではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して子どもを産み育てることができる環境を整えることが、子どもの健やかな育ちを支えることと、保護者の子育てを支えることと理解しています。 待機児童ゼロを目指し、子育て中の保護者を支えることは、安心して子育てをしていただくために、必要な要素と考えています。 	③意見として 承ります
60	42・43 ページ 目標（6）全般	<ul style="list-style-type: none"> 全体として全くわかりません。取組みとして高浜高校SBP？何のことか全くわかりません。いくら税金を投入しているのですか。観光協会への人的・活動支援？これも同様。いくら税金を投入しているのですか。土日に関わっている観光協会？あり方を見直すべきでは。そして、指標。市内の法人数。行政がかかわるイベントの来場者数。製造品出荷額等。いずれも市の施策とは関係ありません。瓦を応援するのであれば、窯業が納める税金の額とか。工業用地 	<ul style="list-style-type: none"> 後期基本計画は今後4年間で市が目指すべき方向性を定めたものであり、個々の事業の詳細を載せることは性質上異なると考えます。ご指摘にあるような具体的な取組み（市内事業者の活動のPRおよび支援、周知や他分野への結び付け）や予算などについては「アクションプラン」にて記載しております。 指標等その他ご意見についてのご回答についてはパブリックコメント質問番号 61、64、65 をご参照ください。 	③意見として 承ります

		の創出によってプラスになる税収とか。全体の構成から再考すべき。		
61	42・43 ページ 目標（6）全般	<ul style="list-style-type: none"> 行政課題として、一過性的な性格の「イベント」に注力されることは適切でしょうか？長期的な視点から、恒常的な観光資源の開発や、ネットワーク化、まちづくりを進め、これに情報発信等を加え、安定的な、来訪構造の醸成に取組まれることが、あるべき姿かと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 行政がかかわるイベントの来場者数（鬼みちまつり、オニマルシェ、かわら美術館来館者数）は「より多くの市内外の方に鬼みちまつりやオニマルシェに出展をしている地元商店を知っていただく、ランプシェード製作で小学生に地場産業に触れていただく、そして、かわら美術館に来場することで、高浜の地場産業を知っていただく機会を創出すること」を主な目的としています。 これらを継続することが、高浜の地元商店のPR、地場産業のPRにつながると考えております。 	③意見として承ります
62	42 ページ 目標（6） この目標が目指す4年後のまちの姿 「市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています」	<ul style="list-style-type: none"> 「この目標が目指す4年後のまちの姿」に「市内事業者の受注機会が増え、売り上げが増加しています」と書かれているが、売り上げ増加を目指す理由は何か。 持続的な経済の発展やそれに伴う設備投資サイクルを目指しているのであれば法人の利益拡大、市の税収確保を目指しているのであれば法人事業税における法人所得割の部分の増加や法人住民税における法人税割の部分の増加が必要。これらは売り上げの増加では必ずしも達成できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の事業活動の結果を表すものとしては利益、市の税収の結果を表すものとしては法人市民税の法人税割などがあるのは、ご指摘いただいたとおりでございます。 これら事業者の活動に対する「結果」を行政が目指す姿とするのか、市内事業者ががんばって活動している事業活動に対する成果として売り上げに焦点をあてるという視点もございませう。今回は、販売活動、生産活動に焦点をあて目指す姿とさせていただきました。 	③意見として承ります
63	42・43 ページ	<ul style="list-style-type: none"> 「こんなことに取り組みます！」に「災害によ 	<ul style="list-style-type: none"> 第6次総合計画中期基本計画では三州瓦に特化 	③意見として

	<p>目標（６） こんなことに取り組みます！</p> <p>「災害による風評被害の払しょくや伝統性を生かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やブランド性をPRするため、高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例を推進します」</p>	<p>る風評被害の払しょくや伝統性を生かした商品開発、ブランド化など、地場産業である三州瓦の優位性やブランド性をPRするため、高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例を推進します」とあるが、あまりにも瓦産業に肩入れしすぎなのではないか。また、事実認識として実際に三州瓦のような粘土瓦は重く、家全体の重心が高くなってしまふことにより、同条件であれば近年の主流である金属瓦の他、スレート瓦と比べても地震に弱い（参照：三州瓦オフィシャルサイト「瓦WEB」）ことに加え、耐低温性能・耐風性能・防水性能・施工の容易性・いずれにおいても近年の主流の金属瓦に劣っている。</p> <p>この事実を直視せず、ただ「風評被害」と言っているだけで伝統・文化という言葉に甘えていては、市場は引き続き縮小の一途を辿るほかない。</p> <p>既存企業の更なる発展と、新たな産業の育成が両輪となってバランスよく回っていくことで持続可能な産業活性につながっていくものであり、伝統産業だからといって過度の助成をすれば次第に産業のバランスは失われていく。</p>	<p>した記載をしていますが、前期基本計画には三州瓦に対する支援を掲げています。前期基本計画を踏まえて平成26年度に三州瓦の条例を制定しており、後期基本計画もこの流れを継承しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 瓦は他の屋根材と比較すると屋根裏への断熱性、葺き替えなどの長期的なメンテナンスコストが安くなるなどの優位性もございます。これら優位性や、震災後に確立された耐震施工技術をPRする取組みを支援するとともに、新たな技術開発、販路拡大など、業界が進める戦略を支援することが高浜市みんなで三州瓦をひろめよう条例でうたわれている行政の役割であると考えます。 	<p>承ります</p>
<p>64</p>	<p>43 ページ 目標（６） こんなことに取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 高浜市の鬼みちは歩きたい道500選にも選ばれています。最近は平日のみだけでなく休日にも家族連れで歩いておられる方々を見かける 	<ul style="list-style-type: none"> • 高浜市観光協会は高浜港駅前の事務所と高浜港駅とかわら美術館の中間位置にある観光案内所「オニハウス」の2箇所で高浜を訪れる方の 	<p>③意見として承ります</p>

	<p>ます！</p> <p>「高浜市観光協会や関連団体が行うイベントや高浜市のPRに対する人的支援、活動支援をします。」</p>	<p>ようになっています。特に休日に来られる方は市外の方が多くは多いと思いますが、鬼みちの観光案内所（観光協会）は土日休みとなっていますが、できれば土日は営業をして案内所としての役割を果たしていただけたらうれしいです。</p>	<p>案内をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所は土日は休業していますが、観光案内所オニハウスは土日祝日営業をしております、観光協会職員が対応をしておりますのでご利用いただけるようお願いいたします。 	
65	<p>43 ページ</p> <p>目標（6）</p> <p>みんなで目指すまちづくり指標全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指標「①市内の法人数」と「②行政がかかわるイベントの来場者数」なぜ中期と目標値が同値なのか？ ・市内の法人数やイベント来場者目標は、中期目標（2017）と同値。これでは、目標値として、レベルが低すぎかと思えます。しかし数量増加だけを指標とすることの適正さを確認も必要では？ ・指標「①市内の法人数」は中期計画での推移（2013年898、2014年922、2015年894、2016年919）を踏まえれば、2021年の指標目標値930は誤差の範疇。また、指標の分析を詳細にするうえで、法人数だけでなく毎年①企業の新規法人設立件数、②個人事業主の法人成り件数、③企業の廃業件数、④企業の休業件数、⑤企業の倒産件数、⑥課税法人総数（または非課税／赤字法人総数）に分け、それぞれ分析した上で対応策を練っていくべき。 ・指標「②行政がかかわるイベントの来場者数」は、2016年は86,000人であったものの、 	<p>①市内の法人数について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、第6次総合計画の土地利用構想図で新たな工業系ゾーンに位置づけられた2地区の工業用地創出事業や企業誘致事業などに取り組んでおります。これらの事業は後期においても継続する事業であり、これらの事業に対する直接的な指標として市内の法人数の増加を目指す指標は、適正であると考えております。また、中期の計画期間中に法人数が減少したことを踏まえ、中期の目標法人数をそのまま据え置きしております。 ・企業や事業者数の推移やニーズを把握し、対応策を検討しております。 <p>②行政がかかわるイベントの来場者数（鬼みちまつり、オニマルシェ、かわら美術館来館者数）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、平成26年度、平成27年度で目標値の100,000人に近い来場者となりましたが、平成28年度に86,000人と1万人ほどの減少となっています。内訳としては鬼 	<p>②原案どおりとします</p>

		<p>2014年は99,000人、2015年96,000人と、中期計画での目標値100,000人をほぼ達成している。中期計画での目標値に甘えず、後期計画ではより高い数値設定をすべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標「③製造品出荷額等」を設定した理由及び「等」とは何を指すのか。この指標だけでは薄利や赤字であっても多売できていれば数値上良化としなされてしまい、また1つ当たりの金額は乗らないものの高利益率の付加価値が高い製品が正当に評価されないことになってしまうため、補助指標を設ける必要があるのではないか。 	<p>みちまつり来場者数は約1,400人増加しましたが、かわら美術館の来館者数が減少したことが主な理由となります。鬼みちまつりの来場者は増加傾向にあること、かわら美術館の来場者数は新たな取り組みで増加傾向にあることから中期目標と同水準の100,000人としています。</p> <p>③製品出荷額等について</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造業の就業者が高い比率である高浜市において、産業活動の一つである製造品の出荷が活発に行われていることを把握する指標として設定いたしました。 製造品出荷額等とは「1年間の「製造品出荷額」、「加工賃収入額」、「修理料収入額」、「製造工程から出たくず及び廃物」の出荷額とその他の収入の合計です。 なお、製造品の出荷とは、その事業所の所有する原材料によって製造されたもの（原材料を他に支給して製造させたものを含む）を当該事業所から出荷した場合をいいます。この場合、同一企業に属する他の事業所へ引き渡したものの、自家使用されたもの、委託販売に出したのものなども製造品出荷に含まれます。」（経済産業省HPより） 	
66	45ページ 目標（7）	<ul style="list-style-type: none"> 指標「①日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」は、中期計 	<ul style="list-style-type: none"> 指標「①日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」は、ご意見 	③意見として承ります

	<p>みんなで目指すまちづくり指標</p> <p>「①日ごろから省資源や省エネなど環境に配慮した生活をしている人の割合」</p>	<p>画策定時の目標値 85%に対して、2013年に79.9%だったのが2014年に80.9%と一旦改善するものの2015年は78.1%、2016年は77.9%と悪化基調となっている。目標未達のみならず当初よりも悪化したにもかかわらず、施策課題カルテ7-1にて「依然高い水準は確保している」「分別収集が、市民にとって当たり前の活動として定着している」と述べており、全く現状分析と改善策の検討ができていない。原因の本質を探り出さなければ、中期計画の二の舞を演じることになるため、詳細分析をすべき。</p>	<p>のとおり目標値 85%が未達成、また、2016年は77.9%と減少していますが、75%(3/4)以上を確保していることから「依然高い水準は確保している」としました。</p>	
67	<p>45ページ</p> <p>目標(7)</p> <p>みんなで目指すまちづくり指標</p> <p>「②一人1日あたりの家庭ごみ排出量」</p>	<ul style="list-style-type: none"> なぜ中期の目標値と同値なのか？ 指標「②一人1日あたりの家庭ごみ排出量」は、中期計画にて毎年の数値がほぼ横ばいとなっている。同指標の他市との比較、ゴミ政策における他市との違い等も含めて分析し、実効性のある施策を打ち出すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 指標「②一人1日あたりの家庭ごみ排出量」は、市民の皆様のごみ減量に協力をいただいておりますが、毎年の数値は横ばいとなっています。国の基本方針及び愛知県廃棄物処理計画では、500gが目標値として採用されていますが、本市では国や愛知県の目標値である500gよりもさらに減量を進めるため、中期基本計画の目標値である490gを引き続き目標値としています。 近隣市の指標である「一人1日あたりの家庭ごみ排出量」は、少ない順に、安城市、知立市、高浜市、刈谷市、碧南市となっています。 	<p>③意見として承ります</p>
68	<p>46・47ページ</p> <p>目標(8)全般</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施策課題カルテ8-1で指標・目標の悪化に関する分析・課題・改善施策が何も語られていな 	<ul style="list-style-type: none"> 中期基本計画の目標8で設定した指標の「暮らしやすい環境が形成されていると感じている 	<p>②原案どおりとします</p>

		<p>いため、後期計画において中期計画での失敗が活かされているのか疑問。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中期目標で毎年悪化の一途を辿っていた指標「①暮らしやすい環境が形成されていると感じている人の割合」を後期計画で削除した理由は何か。この指標は市民の実感を問うアウトカム（成果）指標として適切であり、長期時系列分析をする上でも継続指標とするべき。 	<p>人の割合」は、行政として多岐にわたる事業の成果指標となっていることから、取組みの効果を測定し改善につなげていけるよう、所管するグループが中心に進める事業の成果指標に、後期基本計画は変更しております。</p>	
69	<p>47 ページ 目標（8） みんなで目指すまちづくり指標 「①道路の長寿命化を計画的に実施した割合」 「②配水管の耐震化率」</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 後期計画での指標「①道路の長寿命化を計画的に実施した割合」「②配水管の耐震化率」は、予算さえつけばできる内容で達成も容易。この指標の達成が目標「自然と都市機能が調和した都市空間がつくられていると感じている人の割合」に結びつくのか甚だ疑問。中期計画と同じように各部のアクションプランに掲載すべき内容であり、指標として不適切であり、削除すべき。 • 幹線道路の舗装、指標の意味がわかりません。わかりやすく、適切な指標の設定を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> • 行政が主体となり進める都市空間の形成に必要なハード整備において、道路、水道、下水道や公園等はそれぞれが個別の機能を有し、計画的な整備、機能維持に必要な維持管理を行うことで、調和が図られます。 • また、これらの事業を進めるには、多額の費用（国、県の補助金の確保）や長い事業期間を必要とすること、道路事業においては、事業に影響する地権者の方の土地の協力を得ることなど市民の方のご理解とご協力が必要です。 • これらの事から、個々の事業を進めることで、目標の達成につなげて行く視点から指標を設定しております。 	②原案どおりとします
70	<p>47 ページ 目標（8） みんなで目指すまちづくり指標 「③公園・緑地・稗田</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 指標「③公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等を利用している人の割合」は、対象があまりに広すぎるため、将来分析をする上で、過去3ヶ月以内の①公園利用者の割合、②緑地利用者の割合、③稗田川の水辺利用者の割合、④港湾 	<ul style="list-style-type: none"> • この指標は、公園・緑地・稗田川の水辺・港湾緑地等について、市域全体で「みどりのある公共施設」の利用を大きくとらえたものとしております。 • ご提案のアンケート細分化については、施設利 	②原案どおりとします

	川の水辺・港湾緑地等 を利用している人の割合」	緑地利用者の割合と、期間を定めた上で場所を分けて指標とするべき。 それぞれ分けなければ、例えば前年に公園施設の整備や修繕を行ったとすると、それが利用者の増減にどの程度影響があるのか、整備を行わなかった項目（例えば稗田川水辺）と比べて有意な差異があるのか、もし成果が上がらなかったら利用者目線での整備修繕ができていたのか否かの分析がある程度可能であるが、ごちゃまぜにすると何が要因でこういう結果になったのかわからず、アンケートをする意味がなくなってしまう。指標の有効性を高めるため、指標は必ず期間を定め分割すべき。	用者の地理的、生活環境によって成果指標にばらつきが予想されることから、貴重なご意見として承ります。	
71	47 ページ 目標（8） みんなで目指すまちづくり指標	<ul style="list-style-type: none"> 市全体の緑化率指標を設定すべきと思います。これを基に「植樹計画」を立案し、「まち協」に支援・育成を依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、高浜市では「緑化率」を市域全体で算出した数値は持ち合わせておりません。類似指標として「緑被率」を、平成23年度に算出しておりますが、この指標は、おおよそ10年に一度を目途に算出する予定となっており、指標として1年単位で、数値化目標の結果が算出できないことから、現在の案とすることとしております。 	②原案どおりと します
72	目標（8）	<ul style="list-style-type: none"> 稗田川沿いに気軽に体操ができる設備がほしい。（例：鉄棒、腹筋ができる器具、垂直跳び板、反復横跳びライン） 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見いただきました健康遊具については、ウォーキングの利用者や地元の関係団体のご意見、健康増進の視点を踏まえて検討する必要があると考えておりますので、今後、福祉部との連携を図ってまいります。 	③意見として 承ります

73	目標(8)	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、緑地、稗田川沿い、各公園等のトイレの洋式化の促進を願う。高齢者にやさしい施設。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した公園の長寿命化計画に沿った、今後の施設のあり方を引き続き検討し、必要な対応に努めてまいります。 	③意見として承ります
74	48・49ページ 目標(9)全般	<ul style="list-style-type: none"> ・高浜市では発災時、市民・地域・事業者・関係機関がどのような動きをとるのか全くわかりません。こうした行動指針等を作成し、市民に提示すべきでは。親戚の水道屋さんも災害復旧に向けた体制を自分たちは作りたいけど、市が動かないと言ってました。再考願います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に備え、市民・地域・事業者・行政などが取り組むべき課題をまとめ、全国各地で災害復旧に携わっているNPO法人などと協働して、各種の防災・減災対策に取り組んでいます。今後も、町内会やまちづくり協議会、事業者に関しては商工会とも連携を図り、意見交換や訓練等を通して、役割分担や連携強化を図る中で、行動指針についても検討してまいります。 	③意見として承ります
75	48・49ページ 目標(9)全般	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の犯罪解決には「防犯カメラ」の活躍の目覚ましさを取り上げられています。しかし、総合計画には、何も取り上げられていません。犯罪の抑止力の強化や、犯罪発生状況等々の犯行情報源として、映像に勝るものは無く、計画的に、かつ、短期集中的に、市内への設置推進を図ることが急務かと思えます。また、市内の事業者や、店舗には「カメラ」を設置された拠点も数多く、協力をいただき、一画面を市内道路を観察いただくよう、提供をいただくようにする。この二つの方法を組合せ、ネットワークを形成する。 ①市の負担にて、「カメラ設置」を計画的に拡充。 ②民間企業の画像「一画面を外部撮影」に切替 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの設置は、早期の犯罪解決や犯罪抑止に効果的であると言われており、本市においても警察・町内会・まちづくり協議会などで構成する「高浜市防犯ネットワーク会議」等でご意見を聞きながら、計画的に整備を進めていく必要があると考えています。 ・防犯カメラの設置は、犯罪抑止に向けた具体的な対策のひとつであることから、今後作成するアクションプランに反映してまいりたいと考えています。 	③意見として承ります

		<p>え。費用補助。</p> <p>これらを組合せて、市内に「映像監視・ネットワーク・システム」を構築することを提案し、総合計画への反映をお願いします。</p>		
76	48・49 ページ 目標（9）全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報社会のため、真実か否かは別で、権力によって動いてしまうこの現代。子どもたちに教育していくために、まず大人が冷静に判断すること。情報（フェイクニュースなど）によって事業者、関係機関、または警察、救急車などが動いていくなど、まじめに働く者を否定するような行為は断じて許されない。そんな大人にならぬように、“連携した取組み”の言葉に気を付けたい。（誤りを連携してはならない） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまで発生した自然災害などを見ても、災害による被害を最小限に抑制し、また、犯罪や交通事故などを減らしていくには、市民・地域・事業者・行政などが互いに役割分担を図る中で、連携して取り組むことが重要と考えます。 	③意見として承ります
77	49 ページ 目標（9） みんなで目指すまちづくり指標 「①家具を固定している人の割合」 「②防災訓練に参加したことがある人の割合」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標「①家具を固定している人の割合」及び「②防災訓練に参加したことがある人の割合」は、それぞれ家の中での対策、災害が起こった際の対策力を向上させるための指標として掲げていると思われるが、これに加えて家自体の対策として、例えば「建物の耐震化が済んでいると思う人の割合」を指標として追加すべきではないか。家の内側と、災害が起こったときだけの対策では減災対策としては不十分だと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害対策には様々な取り組みがあり、どれも推進すべき重要なものばかりです。ご意見のとおり、安全・安心が実感できるまちづくりを進める上で、建物の耐震化は重要な対策のひとつであると認識しております。計画作成にあたり、まちづくり指標として建物の耐震化も検討しましたが、市民一人ひとりが命を守るため、かつ安価に取り組むことができ、効果が高いと思われる対策を優先にまちづくり指標を定め、取り組みを進めてまいりたいと考えております。 	②原案どおりとします
78	49 ページ 目標（9） みんなで目指すまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標「③人口 1,000 人当たりの犯罪発生件数」は、指標にふさわしいと思うが、施策課題カルテ9-1記載の各活動（青パト／赤パト／防犯 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯対策には特効薬はない状況ですが、高浜市防犯ネットワーク会議などで関係者の意見を聞きながら、活動に対する検証、要因分析など 	③意見として承ります

	<p>くり指標 「③人口 1,000 人当たりの犯罪発生件数」</p>	<p>ローラー) がどれだけ犯罪抑止につながったのか分析をする上で、重点活動地区を期間を分けて実施することなどを通して、各活動の有効性を検証すべき。</p> <p>桶川ストーカー殺人が問題となった前後など、犯罪件数の取り方を変えたときを除き、犯罪件数は長期時系列で減少傾向が続いている。犯罪件数が減少したとしても、要因分析は重要であり、より効果的な施策に限られた資源を投下すべき。</p> <p>また警察と連携を取りながら、犯罪種別ごとの動向や犯罪多発地区の情報を随時発信していくべき。</p>	<p>を進める中で、より効果的な活動の推進に努めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •また、犯罪種別ごとの発生件数などについては、従来のまちづくり協議会への情報提供に加え、ホームページなどでも情報発信してまいります。 	
79	<p>49 ページ 目標 (9) みんなで目指すまちづくり指標 「④人口 1,000 人当たりの交通事故発生件数」</p>	<ul style="list-style-type: none"> •指標「④人口 1,000 人当たりの交通事故発生件数」も指標にふさわしいと思うが、交通事故に関するメタ分析では、交通事故減少に強い因果関係を持っているのは、自動車の安全性能の向上 (自動ブレーキシステム / 衝突回避機能 / 急発進防止機能 / バックモニターなど) の賜物だと言われている。場合によっては、このような車への買替促進策が事故減少に一役買うのではないだろうか。 <p>施策課題カルテでは、市内の事故発生件数が減少した要因について各団体の取組みが功を奏したと述べられているが、県平均の事故件数の減少幅と比べて鈍化している。高浜市は他市と</p>	<ul style="list-style-type: none"> •交通安全対策にも特効薬はない状況ですが、警察からの情報提供に基づき、本市における交通事故の傾向などを継続的に分析し、他の自治体の取り組み事例なども参考に、関係団体とも連携を図りながら必要な対策に努めてまいります。 	<p>③意見として承ります</p>

		<p>比べて面積が小さいため道路の総延長も短く、そのため走行距離が短くなり、その結果県平均と比べて事故発生件数が少ないのは当然。2009年時点で県平均が6.9件が2016年に5.5件まで、一貫して減少傾向が続いたのに対し、高浜市は2009年時点4.0件が2013年まで5.0件まで増加したものの2016年に3.9件と、結果的にほぼ横ばいとなったことの原因・要因分析を有効性の検証はなされたのか。</p>		
80	52・53ページ 目標(10)全般	<ul style="list-style-type: none"> 町内会から、いきいき広場の団体へ「食材費用」を寄付しました。数十万円の予算確保に苦労されているようです。市は、なぜ、費用提供されないのでしょうか？ <p>総合計画は、具体的な施策に、きめ細やかな配慮が不足し、矛盾が発生していると思われる。弱者への支援対応の充実にご配慮をお願いします。(「社協」予算の用途についても監査管理が必要と思います)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「こども食堂支援基金」は、子どもたちの健全育成の一環として、様々な団体、グループ等が、ボランティアで生活困窮家庭の子ども等へ栄養バランスのとれた食事を安価で提供する活動(以下「子ども食堂」という。)を応援するために設置され、奨励金を支給することで、「子ども食堂」を支援しています。基金設置後1年以上が経過し、支援の輪が広まり、多くの寄附が集まり、安定的に運用がされています。市も引き続き、「子ども食堂」に対し、個人・団体から寄附を受けた食材の提供や基金に対する広報活動を通じて支援していきます。 高浜市社会福祉協議会の監査管理につきましては、地方自治法に基づく財政支援団体等の監査及び社会福祉法に基づく指導監査が実施されています。 	③意見として承ります

81	53 ページ 目標（10） みんなで目指すまちづくり指標 「①いきいき広場を知っている人の割合」	<ul style="list-style-type: none"> ・指標が「いきいき広場を知っている人の割合」ですか。情けない。今掲げる指標ではない気がします。福祉のまち高浜が泣きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「こんなことに取り組みます！」の「生活困窮、介護、障がい、育児など、支援が必要な人に対し、早期かつ包括的な相談支援を行い、各々の事情に応じた支援につなげます。」に対応した指標として掲げています。 ・支援が必要な当事者はもちろんのこと、気軽に相談できる福祉の窓口である「いきいき広場」の認知度を把握するために設定しています。 	②原案どおりとします
82	55 ページ 目標（11） みんなで目指すまちづくり指標 「①日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合」	<ul style="list-style-type: none"> ・指標「①日常的に外出や運動を楽しんでいる人の割合」は、中期計画での指標「日常的に運動やスポーツを行っている人の割合」と似た趣旨。時系列分析をする上で、中期計画での指標を引き続き利用すべき。どうしても「日常的に外出をしている人の割合」の意味を込めたいのならば、二本立ての指標（①日常的に運動やスポーツを行っている人の割合、②日常的に外出している人の割合）に分けて設定すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとっては外出することが、適度な運動になることから外出を加えました。また、運動とスポーツが同義語であることから「運動」としました。 	②原案どおりとします